

これは会議主催者による公式議事録ではありません。引用はお控えください。
This is not an official record by the meeting organizers. Do not quote.

タイトル	SouthSouthNorth: A Southern-led approach to tackling climate change and poverty (SSN : 気候変動と貧困に対応する南主導のアプローチ)
主催	SouthSouthNorth (SSN)
日時	2005年12月2日
主要討論者	<ul style="list-style-type: none"> - Rod Janssen - Emilio La Rovere - Saleemul Huq - Thais Corral - Steve Thorne
目的	緩和と適応プロジェクトにて貧困削減、Gold Standard、SSN のプロジェクトの経験、地域住民参加型の適応プロジェクトの紹介。
発表の概要	<p>SSN は 2001 年より活動を開始し、南アフリカ、ラテンアメリカ、アジアへのプロジェクト活動の調整や持続可能な発展(以下、SD)への能力を高めることを目的としている。</p> <p>< CDM について > 現在の CDM は、費用対効果の高い方法で排出削減を実施できるメタンガス回収や HFC23、N2O ガス回収破壊にプロジェクトが集中してしまい、SD 効果が高いであろうと見込まれる CO2 削減のプロジェクトが少ない、low hanging fruit の状態である。</p> <p>SSN の CDM プロジェクトでは、できるだけ南に SD をもたらずプロジェクトを促進している。2005 年に CDM 理事会に登録された Kuyasa low cost housing upgrade プロジェクトは 3 つのプロジェクト活動で構成されており、これらの実施により貧困削減や雇用創出などの作用 (co-benefit) が見込まれる。SSN は kuyasa プロジェクトの他、Mondi Richards Bay biomass project などを実施している。</p> <p>ブラジルでのプロジェクト USINAVERDE では、Gold Standard の SD 指標を利用し、SD への貢献度を分析/評価した。</p> <p>今後の教訓として、CO2 削減プロジェクトは SD への寄与をもたらすものが多いこと、CDM は技術の躍進をもたらすこと、雇用促進などにより貧困削減へ寄与することなどがあげられる。</p> <p>< 緩和、適応、貧困削減について > NNS は適応プログラムにおいて、地域住民ベース (CBA: Community Based Approach)、プロジェクトベース、トップダウンとボトムダウンの融合、learning-by-doing のアプローチをとっている。また、SouthSouthNorth Adaptation Project Protocol (SSNAPP) という適応のための新しい方法論を作成中である。また、誰もがそれを使用できるように "copy-right" ではなく "copy-left" にして、経験や情報を共有できるようにする方針をとっている。</p> <p>SSNAPP は、気候変動の影響や脆弱性、貧困地域のマッピングなどを対象とし、直接的な影響として資金や食料を提供し、間接的にはインフラ整備、教育の普及などに努めている。</p>

これは会議主催者による公式議事録ではありません。引用はお控えください。
This is not an official record by the meeting organizers. Do not quote.

プロジェクトは以下の 11 のステップで計画/実施される。		
Step	実施内容	対象期間
Step 1	脆弱性の高い地域やセクターをマッピングする	2005
Step 2	国内やその地域ごとに貧困地域をマッピングする	2005
Step 3	1,2 を組み合わせて、ホットスポットをだす	2005
Step 4	誰が何を行っているかなどの予備調査及び情報を収集する	2005
Step 5	実現可能なプロジェクトのコンセプト化など、集めた情報とデータを分析する	2005
Step 6	コミュニティとの関係を考慮しながらプロジェクトパートナーを選定する	2005
Step 7	フィージビリティ調査後、パートナーと MoU を締結する	2006
Step 8	コミュニティとのかかわり、能力構築、技術評価などパートナーと確認し、対象コミュニティでのプロジェクトを計画する	2006
Step 9	世界及び国レベルでの資金を調達する	2007-8
Step 10	能力構築や生活の改善などを考慮しながらプロジェクトを実施する	2007-8
Step 11	プロジェクトの収入、貧困、健康などを含めたプロジェクトのモニタリングと SD への寄与に関して調査する	2008
<p>適応プロジェクトのオプションとして、沿岸地域の植林(サイクロン対策など)、緩和と適応の同時実施、灌漑の技術改善などが考えられる。現在、ブラジル、バングラデシュ、インドネシア、南アフリカ、タンザニア、モザンビークで計9つのプロジェクト構想がある。</p> <p>プロジェクトの結果として、コミュニティの能力構築、政策開発、方法論、ベストプラクティスの実施、持続的な活動、健康改善、貧困削減などが見込まれている。</p>		
資料	UNFCCC HP から資料入手可能。 http://regserver.unfccc.int/seors/reports/events_list.html	

文責：錦 真理 (GEC)